

20036

血管内視鏡を用いて血管内遺残カテーテル抜去を試みた症例について

**【背景】**遺残カテーテル抜去を血管内視鏡を用いて試みた珍しい症例であるため報告する。**【患者背景】**2013年11月、74歳女性。既往歴:PAD、DM、HT、HL 他院にて下肢治療後、波行症状なし。2013年7月に左TRIでカテーテル中にカテーテル遺残。回収を試みるも、回収できず保存的加療を行う。主訴:左上肢がだるく、冷たい。精査希望。**【検査】**心電図・胸写:異常なし血管エコー:左橈骨動脈にカテーテル遺残し、血流なし。血管内カテーテル検査:右肘部より4Frシースを挿入左上腕からYUMIKOにて造影を施行。左橈骨動脈は完全閉塞をしており、上腕動脈高度閉塞90%を確認。また上腕動脈遠位部狭窄に対しステント留置を確認した(ステント名不明)。造影上、目視による遺残カテーテルの確認は出来なかった。**【方法】**左鼠径部より6Frシースを挿入し、腋窩動脈までカテーテルを挿入し造影、IVUSにて血管内性状の確認とステント内の状態の確認を行う。その後、上腕動脈狭窄部を2.5×40mmのバルーンでPOBA後、血管内視鏡を用いてカテーテル遺残状態を確認し抜去を試みたが、血管内膜に覆われた部分と血管から浮いた部分が存在し回収困難であることを確認。その後3.8×80mmバルーンにて上腕動脈をPOBA。造影を行い血管の開存を認め終了した。**【まとめ・経過】**遺残カテーテルは左橈骨動脈内に残存しているが、上腕へのPOBAによって血流の改善は認められた。カテーテルの抜去は行わず保存的療法の方針で現在まで12月、2月とFUを行い経過は良好である。